

2024年4月入学岡山大学大学院社会文化科学研究科博士前期課程【2月募集】入学試験問題

講座（学修分野）	国際比較経済（グローバル経営・経済）、 経済理論・統計、政策科学、経営学
専門科目	ミクロ経済学

以下の問1、問2の両方に解答しなさい。なお、問1は解答用紙の第1ページと第2ページに解答し、問2は解答用紙の第3ページと第4ページに解答しなさい。導出過程も書くこと。

問1. (1)から(4)の設問のすべてに解答しなさい。

個人は、利用可能な全時間 T を余暇に使う時間 l と労働に使う時間 L に配分するものとする。すなわち、 $T = l + L$ である。個人の所得 I は、労働時間 L と賃金 w の積に等しいとする。財 x の価格を p とし、所得はすべて財 x の消費に使われるものとする。このとき、予算制約式は $px = w(T - l)$ である。個人の効用関数を $u = xl + ax + l$ とする。 a は、財から得る効用の大きさをあらわすパラメーター(定数)である。

(1)個人が、効用を最大化するよう余暇時間 l と労働時間 L を決定したときの、余暇時間 l と財 x の消費量を求めなさい。

(2)個人は、賃金 w が低い場合、全時間を余暇時間 l に使い働かない。賃金 w がある一定の値 w_0 を超えると、個人は労働に時間を使うようになる。 w_0 の値を求めなさい。

(3) a が増加したとき、 l および w_0 の変化を記述した文章として正しいものは、以下の(a)から(d)のいずれか。

(a) l と w_0 はいずれも増加する (b) l は増加するが w_0 は減少する

(c) l は減少するが w_0 は増加する (d) l と w_0 はいずれも減少する

(4)賃金上昇していくとき余暇時間 l は、どのように変化するか。横軸を l 、縦軸を x として図示しなさい。

問2 ある劇場の需要曲線（料金と入場者数との関係）は、「大人」と「子供」では異なり、それぞれ

$$d_1 = 200 - p_1 \quad (d_1 : \text{大人の入場者数}, p_1 : \text{大人料金})$$

$$d_2 = 250 - 2p_2 \quad (d_2 : \text{子供の入場者数}, p_2 : \text{子供料金})$$

で示されるものとする。劇場の座席総数は150人であり、劇場の費用は入場者数に関係なく一定であるものとする。

- (1) 劇場は料金 p_1 、 p_2 をいくらに設定するか。
- (2) 総余剰が最大となるのは劇場がどのような価格設定をするときか。

以上